



中部電力

特許1件
出願中



津波早期検知への取り組み

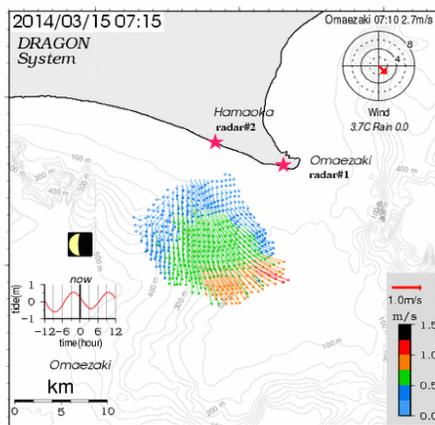
津波をいち早く発見し、防災・減災に役立っています。



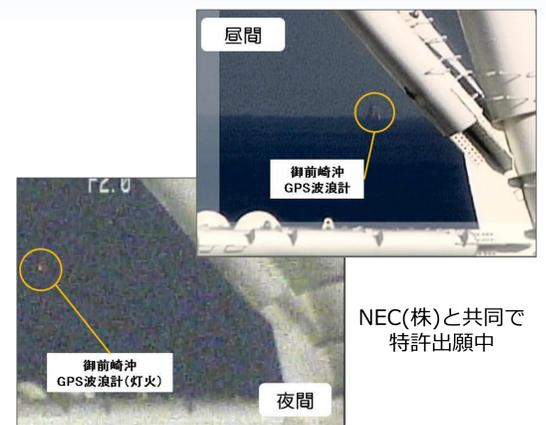
背景・目的

- 大規模な津波の発生を想定し、防災・減災の観点から、複数の観測技術を組み合わせ、津波を早期に検知し、浜岡原子力発電所での到達時刻や高さ、収束時期を予測する「津波監視システム」の構築に取り組んでいます。

<海洋レーダーによる観測>



<高感度カメラによる観測>



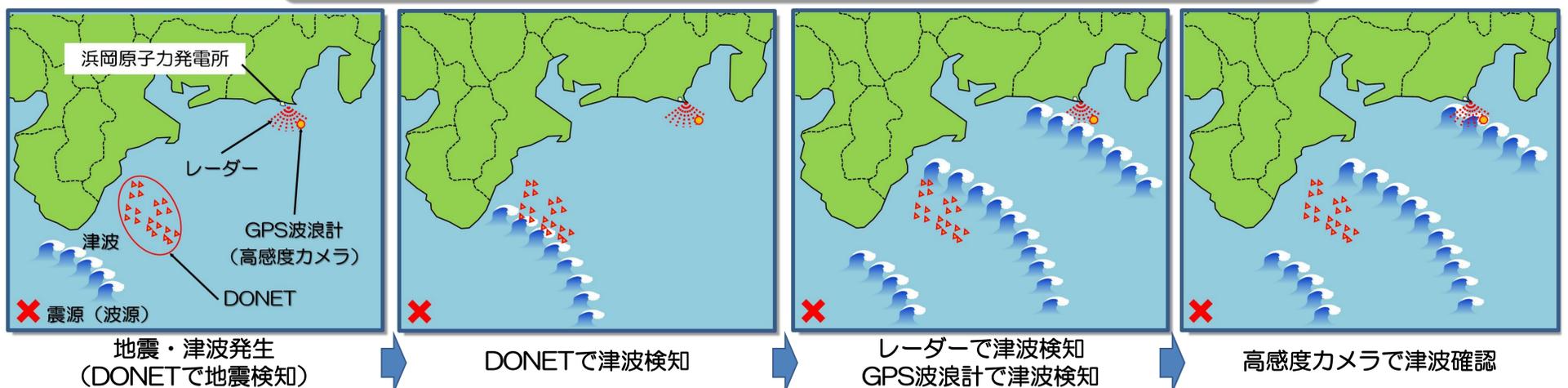
特長

- 海洋レーダー・高感度カメラ（自社）、DONET・GPS波浪計（外部機関）データを活用
- 津波が到達する10～40分前の検知を期待
- 津波が発電所に到達する時刻、到達時の高さを予測
- 津波が収束する時期を予測

用途

- 作業で開放された防水扉等を閉止する時間を確保できる
- 作業員が安全な場所まで退避できる時間を確保できる
- 大津波警報発令中における点検・復旧作業の開始判断目安にできる

観測技術から得られる情報に基づく津波検知フローの一例



開発者のひとこと

浜岡原子力発電所では、防波壁や防水扉の設置など様々な津波浸水対策（ハード対策）を行っています。「津波監視システム」の構築によってソフト面での対策も追加し、より安全性を高めることを目指しています。